

## 地域懇談会実施報告書

自治会名	五日町自治会
開催日	6月11日(水)
時間	19:00 ~ 20:50
開催場所	五日町公民館
参加人数	24人
懇談内容	別添 議事録

質問等後日回答を要するもの

上原地区デマンドバスの試行状況

対応

なし



行政側参加者氏名

庶務課 遠山 勝

庶務課秘書係 西山 賢治

記録者氏名

庶務課行政管理係 丸山 進

## 五日町自治会地域懇談会会議録

平成 20 年 6 月 11 日 19:00～

### 1. 自治会長あいさつ

### 2. 市長あいさつ

一昨年から始まり徐々に定着してきましたクールビズで、私も本日はネクタイをはずしてきました。地球温暖化が進んでいる中で、先般、国土交通省の方からお話をお聞きする機会がありましたが、気象の変化をみるとこの50年の間に気象変動の激しさが大きくなったということです。極端な大雨や干ばつのように気象の幅が大きくなり、気温もますます高くなり、この50年間に世界中で1.7度、東京では2.7度気温が上昇し、今後ますます上昇幅が急激になっていくだろう、という予測を聞きました。地域社会の中だけで地球温暖化を防止するということは難しい課題ですが、市では社間田の町川の落差を利用した小水力発電を整備することにより、1時間に108kW、100世帯の1年分の電気を起こすことが可能になります。100世帯分の電気を石油を使わずに発電ができるということで、小さな取組みではありますが、関係者のみなさんのご理解をいただきながら進めていきたいと思っています。

市民のみなさまにおかれましても夏の冷房や冬の暖房を適切な温度にしていたければ、その分だけ石油を使わなくても済むということですので、市としてもみなさんに呼びかけていきたいと思えます。

昨年6月から市連合自治会と相談しながら、小さな単位で懇談会を開催するにしました。それまでは大町地区1箇所ですべての会合を開いたために、自治会役員や各団体の役員に来ていただくのが精一杯でした。市としてもご要望やご意見等、予め伺ったものに対して私や副市長、各部長がお答えをする方式で実施していましたが、市民のみなさまのさまざまなご要望やご意見に対して、率直なやりとりができていく環境であったため、このような小さな単位での懇談会とさせていただきました。

昨年の6月17日に第1回を六九町で始めまして本日で49の自治会との懇談会となります。大町市全体で99の自治会がありますので、1年間でちょうど半分となりました。あともう1年くらいかけて、残りの半分の開催していない自治会、あるいは2順目のご要望があれば実施してまいります。

本日の懇談会は、今、大町がどのような状況にあり、これから、どのような方向に向かって仕事を進めようとしているのか第4次総合計画についてお話し、それを踏まえて、みなさんの建設的なご提言をいただきたいと思えます。

第4次総合計画について(ダイジェスト版により説明)

5P 基本理念、将来像、経営像

## 8P めざすまちのテーマ「6本の柱」

(省略)

昨年作ったこの計画は本年度で2年目となり、20年度当初予算では具体化するための予算措置をしています。今年度半ばから後半には具体的な成果が皆さんの目に触れるような取組みを強化してまいります。

### 3. 懇談開始 【19:20】

#### 出席者

王子神社の祭典について、政教分離ということから、市としては祭典に支援はできないという話は以前から聞いているが、舞台や流鏝馬をもっている町内だけで祭りをやっていくというのは、財政的にも人的にも厳しい。財政的には、年間の祭典費は約100万円で町の予算の2分の1となる。また、人的には、年番だけでは舞台を動かすことができず他から人をお願いする状況となっている。

神事と行事を分けて考えていただけないか。例えば王子神社の鳥居をくぐった先は神事で、それまでの運行については行事、イベントとして捉え、地域文化の継承という考え方で、市からご協力いただけないか。舞台が壊れても修理代を出すことも難しい。祭りに関する補助金が難しいということならば、舞台の運行などに人的な支援をお願いできないか。

#### 市長回答

地域の結束という点でお祭りは大きな役割を果たしています。町内の経費の半分がお祭りに費やされているというお話でしたが、これからも地域として担っていただき、大切にしていきたいと思います。お祭りの土台は宗教、神道です。神道を宗教とするかは色々な見方がありますが、現在の法律では、神社は宗教、宗教と政治は必ず一線を画しなさいということになっています。

しかし、地域文化という面で何とか知恵はないだろうかと各市町村では模索しているところです。舞台はお祭りの山車ではありますが、文化財としての役割があります。市内6台の舞台の内、大黒町の舞台は県宝に認定されていることから、文化財として修理が必要と認められれば、県の補助金と市の補助金の対象になります。他の5台の舞台については、補助金の対象としにくいのは事実ですが、地域の文化を担っていく文化財として、市の文化財保護審議会が市の文化財に認定してくれれば、修理については解決できるのではないかと思います。私の個人的な見解としては、それぞれの舞台は100年も歴史を持っているのですから、地域文化を担う文化財としての価値は十分にあると思います。

人々が担う行事としてのお祭りは無形の文化財です。これを宗教と切り離して、王子の鳥居の前までが行事で鳥居の中は神事とすることは現実には難しい部分があります。他の市町村でもお祭りに付随して行われる行事に直接支援しているところはな

と思います。なんとか知恵を出すことによって、お祭りが支えられていくことも大事なことですし、少子化や人口減少を向かえた時代では新たな発想があってもいいのかもしれない。今日ここで明確にお答えできませんがお許しいただきたいと存じます。

人的な支援という面では、舞台についても引き手が必要です。射隊を出している町では「射隊ぼぼ」を確保することさえ難しくなっているといわれます。いままでお祭りに参加していなかった郊外の町の人たちに舞台の引き手や「射隊ぼぼ」をお願いしたという話も聞いています。町内だけで支えてきたお祭りを郊外の町の人たちにも参加していただくような働きかけをしてみたらいかがでしょうか。いままで町内でお祭りを守ってきたのだから他の人たちの力を借りたくないという気持ちもあろうかと思いますが、町内で十分相談しご検討いただけたらと思います。

#### 出席者

舞台の問題については、京都のやり方は祭典ではなく、舞台巡行実行委員会を組織し、商工会議所会頭を委員長として、そこへ舞台修繕などの費用に対して市から補助金を出している。私たちが調べた当時はこのようなやり方だったが、現在の状況も調べてみる必要があると思う。政教分離の原則のなかでもできるような研究をしていただきたい。

防災行政無線の各戸への設置はいつから可能になるか。個人負担はいくらくらいになるか。

#### 市長回答

お祭りについては、お祭りと行事とを分離する知恵を京都などの先進地事例を研究してみたいと思います。

防災無線の整備は、19年度に着手し今年完成させるよう進めています。屋外の拡声器が古くなっていることと、無線が古いタイプのアナログのため、聞こえにくいところがあります。今回はデジタル無線に切り替えるとともに、住宅の機密性がよくなり、外の声が聞こえにくくなっているため、屋外の拡声器の整備をし直します。これについては、行政で整備するものです。屋内のラジオタイプの拡声器については、行政施設や公民館のような避難施設に指定されているところは行政の経費で配置します。

その他に自宅の中で聞きたいという要望があれば、家の中でも専用の拡声器を置けば聞くことができます。この機械は特殊なものでどうしても高くなってしまい、値段は1個あたり4万円くらいになります。その半額の2万円を市から助成を申し上げて、実質的な負担を2万円くらいで配置できるように、最後の調整をしているところです。最終的に助成額などの要綱がまとまりましたら、広報おおまちなどでくわしくお知らせします。ご注文は大町市内の家電協会にお願いしてどこでも同じ仕様で配備できるようにお願いをしております。

また、山が近いなど電波状況がよくないところではアンテナが必要になる場合があります。これについてもアンテナ代の半額を助成申し上げる方向で進めています。まもなく具体的な内容をお知らせできますのでよろしくをお願いします。

#### 出席者

高齢者は外の放送では聞こえないから、各戸に装置が必要である。最近の火災では人が亡くなるケースが多く大町でも事例があった。是非、早急な対応をお願いしたい。

#### 市長回答

わかりました。ありがとうございます。

#### 出席者

舞台の文化財の指定に関して、市にどのような申請をしなければならないかわからない。他の補助申請なども含め、市の担当課で周知を図ってほしい。

国営公園が来年オープンするが、市としてどのように関わっていくかお聞きしたい。

#### 市長回答

行政の様々な手続きは市民の皆さんには分かりにくい点が多いと思います。たとえば、文化財の指定については、市の教育委員会が担当になります。市ではどんな分野でも担当が決まっておりますので、市役所にお越しの際は受付で、または、電話でもかまいませんので、どこの課で担当しているのかを聞いていただき、ご相談ください。内容については担当課で責任を持って対応させていただきます。

市に相談に行きたくても敷居が高いということではいけませんので、職員にはできるだけいいいに分かりやすく対応しましょうと呼びかけあっています。分からない事がありましたら何なりと電話でご照会ください。

国営公園の開園は来年の春季とされていますが、国土交通省の本省でオープニングの時期やイベントについて検討しているようで、まだ日程は明らかになっていません。私たちの要望は、ゴールデンウィークの緑が美しく、観光にもいい時期に遅れないように、できれば4月中に開園してもらえば、地元としてもありがたいし、お客様も来やすいと考えています。

市としての関わりですが、国営公園は国が造って完成しますと堀金・穂高地区でもやっているように、国の外郭団体が運営するという仕組みになります。市としては、完成する前の段階で地域の要望を踏まえて地元にも密着した施設、運営をお願いしています。

まず、公園を運営する上での様々な資材の調達を大町の品物、食材、業者を使っただけよう機会あるごとに要望しています。

もう一点は、地域にある資源を活用して欲しいということです。公園が完成してハード施設を並べておけば人が集まるという発想ではだめです。いつ行っても公園の中でイベントや体験教室、体験講座が行われていて、訪れた人が色々なことを味わったり、体験できたりという思い出が一番大事だと思います。そのためには、地域の人たちが運営に参加していくことが大事なことです。

公園ボランティアとして自然観察のイベントなどで講義をしていただけるような専門家や、清掃のボランティアなど様々な形で市民のみなさんから活動をしていただき、訪れたお客様に満足していただくことは、市民のみなさんにとってもいいことなので、このような形で地域の関わりをお願いしています。

公園に来ていただいたお客様が、公園だけ見て帰ってしまうのではもったいないことです。宮本橋を渡れば国宝仁科神明宮があります。そこから北に向かえば盛蓮寺、薬師寺があります。私も先日 8kmを歩いてみましたが、仁科氏以来の中世の文化遺産がたくさんあります。若一王子神社やかまど神社も大きな文化遺産です。国営公園を訪れる人たちにこれらを周遊していただいて、宿泊につなげるような取組みも必要であります。

また、立山黒部アルペンルートを抜けてきて、温泉郷で一泊したお客様がアルプスあづみの公園に寄ってくだされば、お昼を大町で摂っていただけるようなチャンスも巡ってきますので、地域全体の公園と連携した受け皿を作っていくために、市も観光協会も知恵を出し合っているところです。

案内看板についても国営公園に来るための看板は国で整備しますが、そこから市内を周遊していただくための案内看板については市で検討中です。国に造ってもらっただけではこの地域のためにならないので、色々な切り口の楽しみ方を用意していかなければなりません。行政だけの取組みでは限界がありますので、市民のみなさまのお知恵をいただきながら、開園までの時間も迫っておりますので早急に進めていきます。

#### 出席者

私が子どものころの五日町は商店街を形成していた。いまから商店街を復活させるのは枯れ枝に花を咲かせるようなもので無理だが、人が動く町にすることはできると思う。五日町では空き地が増えてきている。また空き地なる可能性があるところも多くある。そこに市の活性化のために、都会で定年を迎えた人が第二の住む場所として、大きくなくてもいいが、建物を五日町に建てれば人が集まると思う。五日町は静かで駅にも近く、商店街へも歩いていける。少し足を伸ばせば山も川も湖もありゴルフもできる。こうした恵まれたステージである大町で建物を買ってもらう。その人たちは様々なノウハウも持っていますから、カルチャーセンターの講師をお願いするなどして地域との交流もできて人が動き出す。

東洋紡跡地が公園だったらいいと思う。あそこからの山の眺望は最高だし、こんな

発想も一つかと思う。

#### 市長回答

街を活性化するために人が集う、住むということについてご提言をいただきました。今、郊外に家を建てる方が多いです。それは人それぞれの考え方によって家を建てるのですが、若いころは車が自由に使いこなせるから、お店が遠くても不自由はありません。しかし、年をとって車が運転できなくなったとき、歩いて買い物にいける街というのは何よりありがたいことです。実際に九日町の小さな店では、お年寄りが歩いて買い物に来て、お店もうまく行っている、という事例もあります。身近なところで買い物ができるコンパクトな街もなくてはならないと思います。その受け皿として一戸建てがいいという人、便利さの面で集合住宅がいいという人もいると思います。

特に高齢者は便利さ生活のしやすさといった面から集合住宅の需要も予測できます。市でも郊外の市営住宅の建て替えにあわせて、市営住宅を街中にもってきてマンション的なものを造ったらどうか検討した経過があるそうですが、うまくいかなかったようです。今後、市営住宅の建て替えをする時期には、街中に定住するという軸で本格的に検討をしていきます。人口が街の中心に集中することは街に住む人だけでなく郊外に住む人にとっても街に行けばいろんな用事がたせるという利便性が高まります。買い物だけではなく様々な機能も集積することによって、街は成り立っていくので、中心市街地の形成を大事に考えていきます。

東洋紡の跡地については、現在まで東洋紡の所有になっています。東洋紡としても自ら活用する方策がないわけではないのですが、大町にふさわしい企業が立地するのであれば協力しましょうということで、市とも連絡を取り合い協力しながら立地する企業を探しています。

跡地利用については、雇用につながる利用が望ましいと考えています。ただし、騒音を出したり、排気ガスを撒き散らすような産業はこの地域にふさわしくないものからできるだけ地域にふさわしい産業を考えています。

その中で産業が工業だけにかぎるのか、アウトレットモールのような商業施設も考えられますが、既存の商店街への影響や安定した雇用につなげるには工業系の企業に来ていただく方が工業地域に指定していることもあり、優先度としては高いのではないかと考えています。

#### 出席者

防災無線を整備し直しているが有線放送との関係はどうなるのか。

老人クラブの活動で、五日町の百寿会では「ためになる話」という事業をしている。昨年は市議会議長や NPO の方に話しを聞いた。市の職員の中にも老人のためになるような話をしてくれる方がいると思うので紹介をしていただきたい。

## 市長回答

市で進めている防災行政無線は、火災や大きな事故、大雨などの気象の注意報・警報などの防災情報と行政情報の一部を放送する予定です。有線放送は商業放送ですからコマーシャルも流せません。また、生活情報については、行政無線では必要最小限の放送に調整する必要があります。有線放送やケーブルテレビに行政が悪影響を及ぼすようなことは避けなければいけません。

有線放送は数年前にインターネット接続の業務を含め事業を拡大して運営されていますので、今までどおり応援し競合しないよう住み分けをしていきます。

老人クラブで取り組まれている「ためになる話」ですが、年配になってもあらゆることに関心を持ち取り組んでいくことは、生きがいにもつながり、本当にすばらしい取り組みです。また、こうした取り組みを次の世代につなげていく役割も担っていただきたいと思えます。

市でも各分野で出前講座として、要請があれば職員を派遣してお話をさせていただく取り組みをしておりますので、テーマ等決まりましたら遠慮なくおっしゃってください。

## 出席者

総合福祉センター建設にあたり、東洋紡跡地に建設して欲しいとの要望を出していたが、東洋紡が所有していて、買収することも難しかった。街の活性化のために現在の場所に建設されたが、ちょっと狭く、街の活性化につながっているかということは疑問に思っている。

審議会などでも行政から出された書類に対して、質問をして、行政がそれに答えるという形で進められているが、もっと前の段階で、市民の要望をきめ細かに行政に伝えるためにも、市民がもっと意欲的にならなければ協働のまちづくりにはならないのではないかと。第四次総合計画についても、いかに多くの人に読んでもらうか、いかにして浸透させるか、そういうことをやっていただきたい。

以前、100人委員会というのがあり、何回も話し合いを行ったが、意見を出したきりになっている。あのとき集まった人たちをもう一回集めて、今どんな活動をしているか、どんな意見をもっているか何うなど、行政でもっときめ細やかな対応をしていけば、市民の行政に対する関心も高まるのではないかと。

市の職員が2～3年で代わってしまう。仕事を覚え、私たちとも一緒にやってくれそうだとおききに人事異動で代わってしまう。

観光について、和倉温泉の加賀屋は年間を通してお客さんがきているが、加賀屋の仲居さんたちは全員英語を習う。こういった努力を継続していることで、外国の方にも対応できるし、サービスがいいということが評判になればお客さんも増える。その場限りの話し合いや行動で終わってしまっているのが、大町の現状ではないかと思う。市民が行政に関心を持てるような出前講座をやっていただくことを希望する。

## 市長回答

市は審議会をいくつも持っています。そのなかには法律で設置が義務付けられているもの、市の条例で設置しているものなどがあります。以前の審議会は、行政でお膳立てをして、答申の原案を行政が用意をして、ご意見をいただいたところだけ直して正案として答申をいただいていたケースもありました。行政としても市民の皆さんの声を聞いた形にすればやりやすいといった思惑がありました。

ところが今は時代が変わってきています。観光審議会では行政が原稿は用意しなくて、自分たちが議論して決めていくということで13回の議論をいただき、職員も一緒に参加させていただいて、できあがったのが先ほどご紹介した答申です。以前のように行政が段取りをして進めるような審議会は少なくなりつつあります。第四次総合計画は総合計画審議会にご審議いただきましたが、13回の審議会とその他に自分たちの勉強会で市の担当を呼んで説明をさせ、課題についてヒアリングまで行い、実質的に審議会委員の皆さんが自ら取り組んでいただきました。このような形に変わってきました。

審議会の進め方については、市民の皆さんの主体的な参画がいただけるような仕組みを考えていきたいと思えます。現在、審議会の公募による委員を増やしています。公募の委員さんからは、行政にとって耳に痛いご意見をいただくこともありますが、そうした意見を行政に反映させていくことが重要であることを私自身も痛感し、市役所の各組織もそうした認識になってきています。

職員がその分野にせっきく精通してきたときに異動してしまうのは困るということですが、適材適所ということから言えば、仕事にふさわしい人間をできるだけ長く置いておきたいと思えます。基本的には担当レベルの主査までは4年から5年くらいは置くようにしたいと思えます。ただ、係長、課長になってきますと毎年退職者がいるため、その職を誰かが埋めなくてははいけません。適材適所のなかで配置していかなければならないので、2年から3年で交代していくのが実態ですが、事務が引き継がれていけるようには配慮します。また、同じ職場に長くいるということは、法律に基く権限を行使するという意味で、慣れすぎることで弊害が出ます。人事異動によってこれを避けようとしていることも事実です。

新しい職場に来た人でも3ヶ月でその職場に何年もいるような顔ができるように勉強して欲しいと職員にもお願いをしています。仕事が変わって市民の皆さんにご迷惑をかけないように努力します。

観光についてのお話がありましたが、加賀屋も建物や調度品が立派というのではなくて、一人ひとりのスタッフの真心のサービスが加賀屋のすごさだと思います。英語の勉強もサービスに対する姿勢の表れであり、接客ということについて考える機会とされているのだと思います。

立山黒部アルペンルートを訪れる10人に1人が外国からのお客様で、12万人が外国のから来ている中で、大町商工会議所では、英語、韓国語、中国語、台湾語の

講座を開いて、観光産業に従事する人、観光ボランティア、関心のある市民の皆さんに受講していただくくみを考えています。お客様が外からきていただいたときに、言葉と同時に、それ以上の真心でお迎えできるような気持ちが大町全体に広がることを期待しています。

#### 出席者

「わちがい」ががんばっている。市でもバックアップしていったらどうか。オーストラリアの観光客も増えているので、大町の観光にとってもよいのではないか。

大町で10人以上が食事できる場所で自信をもって紹介できるところがなかなかない。

#### 市長回答

あるんですよ。大町の皆さんから見れば価値があるように見えなくても、外から来た人の目から見れば、価値のあるところがいっぱいあります。私もいろんな人から教わりながら、少しずつ気がつき始めました。

今日、北安曇全域を視察に来た村井知事が、お昼を私と一緒に「わちがい」でいただきました。千二百円のわちがい御前ですが、村井知事は「これは安い、二千円から三千円にした方がもっとお客様が来る」とおっしゃいました。お客様は納得したために食事にこられます。少し値段が高くて納得していただけないものを用意して、むしろ高い方が重宝がられるときもあるということです。「わちがい」のほかにもこまつうどんや昭和軒のソースカツ丼、こばやしのおそばもすばらしいと思います。

駅前観光客に「大町でおいしいお店ないですか」と尋ねられたとき、「大町にはないね」と言わないようにすることが大事だと思います。お客様はこれだけの町でおいしいものがあるはずだと思って聞いているのに、そうした無愛想な態度にがっかりしてしまいます。

東京のような超一流の料理はないかもしれないが、この地域ならではの経験をするという意味で食事をすれば、いいお店はたくさんあると思います。パンフレットも「黒豚のお店のマップ」や「58分の散歩道」といった取り組みも少しずつ広がってきていますので、みんなで頑張っていきたいと思います。

#### 出席者

村井知事の車座集会、私も行きましたが大町の方は少なかった。遠くから牟礼村からきている人もいたが、女性も少なかった。

#### 市長回答

私も出席していましたが、村井代議士のころの旧選挙区の関係で牟礼村と三水村から10人ほどがみえて、3人が発言されていました。伊那から2人、松本から1人み

えていました。車座集会は開催地の人でないと出席できないということがないのですが、大町の方ももっと大勢参加していただきたかったと思います。

#### 出席者

車座集会では、高速道路の話が多くの方からでたが、村井知事の話ではあまり希望のないことを言っていた。南へ行けば高規格道路はいらないという人が多いと聞く。

#### 市長回答

知事は、松系道路の推進論者です。松系道路は知事が代議士のときに始まった計画です。道路建設を進めるのが当然という前提のなかで、起点の問題で大町としては豊科インター起点の要望が強いが、知事はこれに対して積極的に返答をしなかったということです。現在、県の建設部が調査をしているところで、6月中に知事に報告されその後、案を示すことから、知事は建設に対してではなくて、ルートについて慎重な発言になっていたと私は受け止めました。

現在、安曇野の観光地を結ぶ西側を通る幹線道路がないことから、知事は山麓沿いに道路が必要ではないですかとっておられますが、実際に波田町から糸魚川まで道路を整備するとなれば事業期間は長くなりますし、用地費もかかることから、このルートを選択しないのではないかと予測をしています。むしろ堤防道路にある程度改良を加えればそのまま使えるところもあり、事業期間も短く、費用もかけないで済むと考えています。県のルート案が示された段階で相談していきます。

#### 出席者

中心市街地の活性化という本通りをイメージされる人が多いが、旧中心市街地活性化基本計画には五日町も入っていて、その中で五日町は空き地、空き家が多くなっている。空き家の管理もされていないのが現状で、防犯上も危ない状態となっている。五日町に限ったことではないが、再開発ということについて市長はどのように考えているか。

八日町に流鏝馬会館があるが、舞台会館を建設するお考えはあるか。

街中に市の出先機関をつくるお考えはないか。

東洋紡跡地の工場誘致について、高速道路から30分というハンディもあるが、企業を誘致してもそこで働く人材がいないということがあると聞いた。若者を大町に定着させる施策についてお聞きしたい。

#### 市長回答

商店街と中心市街地、これは重なっている部分もありますが、実は別の概念です。商店街は商店と市民生活をバックアップするサービス業を中心とする街です。中心市街地とは商店街と商店街を囲むようにして集積した住宅地を含む地域になります。中

心市街地の振興と商店街の振興は重なっている部分もありますが、違うところもあります。

サラリーマンが中心市街地に暮らせば、生活の利便性だけが暮らしのポイントになります。この方が郊外の大型店に買い物に行くというパターンがありますが、しかし、生活のパターンの中で中心市街地の振興をしていくという意味では折り合いを付けていかなければいけないというのは事実だと思います。

かつての五日町では、様々な商店があり、この街だけでも消費が完結していましたが今はこういう状態になっています。そうしたなかで、商店街を造るというのも一つの手段であるかもしれませんが、静かな環境を活かして住宅地にしていくこともひとつの考え方かと思います。その手法として、道路を広げることによって家並みを造りなおし、住環境を整備するということが難しくなっています。公共事業でもハード事業をいれるのが難しくなっています。地権者の皆さんのご理解と経済的な負担を前提にすることがやりにくくなって、県内でも新たに市街地再開発に着手しているところはほとんどなくなってきています。

市が単独で舞台会館や市の行政機関をというのも検討の対象にならないわけではありませんが、舞台会館であれば、新しく建物を造るよりも例えば麻蔵や倉庫などの伝統的な建物を利用したらどうかといった要望も寄せられています。今、直ちに行政が財政的な負担をして整備を検討するところまではいいませんが、一つのアイデアであると思います。

市の出先機関を設けたらどうかというご提言ですが、行政の効率化を考えたとき、出先を造ればコストも膨らみますので、現在、出先機関で統合できるものはないか、そうした観点の方が重要視されるべきと考えます。

東洋紡の跡地への企業誘致についてインターからの距離が問題にされますが、インターチェンジからの距離は断るときの言い訳に過ぎないという方もいらっしゃいます。インターチェンジからの距離が遠くても行政が真剣に取り組み、市民の皆さんがその企業を暖かく受け入れてくれることの方が大切であるといったアドバイスもいただいています。

企業が来るときに優秀な人材が確保できるかどうか大きな要素となります。大町出身で大学を卒業し専門的な知識、技術を活かそうとしても大町に限らず長野県内で大学の優秀な層を必要とする会社は少ないです。大きな会社であっても工場であれば大学の知識は必要としない会社がほとんどで、工業高校や技術専門短大出身者を必要としています。

問い合せがありました企業からは敷地の値段はどのくらいか聞かれます。現在、坪2万8千円で、あのまとまった敷地は魅力があると思いますが、それだけでは企業は決断しません。労働力の確保が必要です。ある企業からは大町で500人の確保が可能ですか、と聞かれました。正直、大町だけでは不可能です。しかし、大町からだけで確保しなければならない必要はありません。白馬や小谷、長野市の南からも通勤が

可能です。また、大町から安曇野市や松本市に通勤している人もいます。その人たちの中には近くに工場ができて自分の条件に合えば、転職をとという人もいますし、松本市や安曇野市からも通勤が可能になります。お話しがあった企業の方には、松本平全体で確保することは難しくないというお話をしています。

ただし、若い人を中心に雇用するときには、松本平全体でも500人集めることは容易ではありませんから、工場が進出することが決まってから、創業するまでのたとえば1年間は勝負になります。企業の努力も必要ですが、大町市としても一緒に努力していかなければいけないと思います。

#### 出席者

3年くらい前になりますが、議員の出前講座をやったとき、議員がデマンドバスを導入したいといていた。私たち年配者は車もなく、ふれあい号も時間が限られていることから、デマンドバスは必要だと思う。現在、デマンドバスについて検討はされているか。

#### 市長回答

私が市長になってからの市議会で何回もデマンドバスやふれあい号に対するご提言をいただいております。今年から、上原の湯へ行くコースはデマンドバス形式に切り替えて試行的に運行していきます。この路線の様子をみて便利でコストが抑えられるならば他の路線についても広げていきたいと考えています。

#### 4. 閉会のあいさつ 自治会長

#### 5. 市長からお礼のあいさつ

お疲れの時間にご出席いただきましてありがとうございました。今日は建設的なご意見、ご要望をたくさんいただきました。今日お答えできませんでした「デマンドバス」については、担当課から状況を調べまして、自治会長さん当てに文書でご回答させていただきます。今日だけではなく今後もこうした機会を設けていただくことをお願いいたします。

【終了 20:50】